

古書の愉しみ（令和二年一月）

土屋 博
つちや ひろし

新春恆例の第三十六回銀座古書の市（於・松屋デパート）の初日に赴く。十數年ぶりに日本書房（水道橋驛近くの國語關係古書専門店）の百圓均一ワゴンありたるは嬉し。其處の收穫品、以下の如し。

一「改正刪補 日本外史字類大全 附圖」

刊行年代は不明なるも明治初期と推定せらる。

（註）同趣旨の書籍として小生の手許に在るは、「日本外史獨學大全」第四卷「日本外史古戰場之圖」（明治十二年版權免許、七十七丁）、「日本外史字解大全」下卷「日本外史古戰場之圖」（明治十七年御届、四十二丁）など。幾種類も存するは、當時の「日本外史」の庶民への普及ぶりを如實に示す。

和綴製本は立派と覺ゆ。上古京都圖より徳川天草五亂圖、豐臣朝鮮國圖まで、全四十六丁也。木版地圖印刷技術の高度なること、驚嘆に價す。

二「影印本 百人一首大成」有吉保編

（新典社、平成六年刊、定價二千圓、一五八頁）

本書は歌仙繪入りの注釋書のうち現存最古のものの復刻版なり。（跋文には承應二年（一六五三年）、刊記には萬治三年（一六六〇年）とあり。）

讀みにくき草書を楷書活字化したるもの、巻末に配せられたるは、極めて有用と覺ゆ。

たとへば、第百番順徳院の「ももしきや」の歌に就いては、「百官の座を敷き並べて朝政行はるゝ故に禁中をもゝしきとは申也。歌の心、王道のすたれ行くを嘆き給ふ義也。此の歌と秋の田の歌は王道のおとろへを述懐し給ふ所也」とあり。

新春に相應しき讀みものと覺ゆ。

三「年號歌」乾々齋觀中公

（文政七年（一八二四年）刊原本の昭和七年復刻（二百部限定）、和綴）

昭和七年の松浦厚記伯爵による序文あり。曰く、「此歌は吾第卅五世祖松浦肥前守源熙公號乾々齋觀中文化十年に著され十二年を経過し文政七年舊藏の朝鮮古來活字木版を用ゐ刊行せしめたるものなり」とあり。

冒頭部分は「年號は皇極帝の四年にて人皇三十七代の孝徳即位乙ノ巳大化元とそ申ける」に始まる。「天明三に信濃なる淺間山やけ七年に今の將軍立玉ふ八年京師大火にて皇宮寛政二になりぬ四年に島原山嶽七年小金御狩あり十に改曆享保元昌平大學なりにけり四年に改む文化にて今年は十酉の年二千四百七十三神武帝より承續て萬々歳の後までも限りなきこそ尊かりけれ」に終る。七五調は心地よし。

新しき年號令和の時代に年號の歴史を振り返つてみるも意義深しと覺ゆ。

四「日本歴史畫報第一號」

（明治二十四年刊、和綴。定價金拾六錢）

神武天皇八十梟帥^{やそたける}を撃つ圖、武内兄弟湯を探る圖、弘計王舞を爲す圖、形名^{かたな}の妻虜を却く圖、役小角^{えんのをづめ}呪術を善くする圖、清麿^{とよなが}豐永に逢ふ圖、平將門を誅す圖。

日本書紀の有名なる逸話を繪入りにて解説したる少年向けの本なれど、戦後世代には馴染み薄き内容なれば、ある意味新鮮なり。

五「新文林」大和田建樹著

（博文館、明治三十一年合本三版、定價金廿四錢、二一五頁）

序に曰く、「官を免されたるは二十四年の春なりき。此頃より筆とりはじめて夜半孤燈の下にかきあつめたるそゞろことが積りては山の如くになりにけり」と。

獨立心なる短文以下の如し。「雨そぼふる道のほとりに七つばかりの少女下駄の緒のきれしを直し居たり。母など病氣にや。又は人につかはれたるにやあらん。醫者へ行く道と見えて藥びんかたへにあり。あゝ此獨立心を養ひたるは誰ぞ。乳にもあらじうばにもあらじ。」

大和田建樹（一八五七年生、一九一〇年没）は詩人、國文學者、東京高等師範學校教授。「鐵道唱歌」、「故郷の空」、「青葉の笛」の作詞家としても著名なり。

六「十錢文庫 傍訓四書 大學中庸論語孟子」

（東京百華書房、大正三年刊、實價十錢、一一二頁）

「十錢の敷島は半日にて煙と化す。十錢文庫は永久に不滅なり」の標語あり。

七 古き寫眞

東京華族會館に於ける集合寫眞。眺むるに味はひ深し。

前列、倉富勇三郎（元樞密院議長）、松方巖（松方正義の長男）、清浦奎吾（元總理大臣、最終學歷は廣瀨淡窓の咸宜園卒業）。後列、井上準之助（元日銀總裁、大藏大臣。昭和七年血盟團事件により暗殺せらる。）、井上哲次郎（元東京帝國大學哲學科教授）、中間五雲（水墨畫家）。

（令和二年三月九日受附）